

質問日	質問順	会派/氏名	件名	要旨
3/7 (火)	1	清風会 詫間政司	1、予算案から見た財政見直しについて	令和5年度予算案には、第2次総合計画に示された施設整備予算が計上されていないものがある。合併特例債の発行期限までわずか3年となったこの時期に、予算提案されていないことの理由を問う。合併特例債に間に合わない場合、計画を進めるための財源は何を想定しているのか。一方で、合併特例債を発行限度額まで執行した場合の財政見直しはどのようなになるのか。持続可能な財政運営の方針と覚悟を問う。
			2、多種多様化していく行政課題の対応について	行政に求められるサービスは合併当初から比べ制度は複雑化し、高い専門性が求められてきた状況であるとともに、時代のニーズに対応するための新規事業への挑戦など、職員は時間外勤務等により対応している状況をよく耳にする。今後、より多種多様化していく行政需要に対応していくには、合併以来継続して実施している事業の精査、実施手法の効率化といった点を深め、限られた予算の中で市民サービスの質を落とさずに、持続可能な行政運営を行う必要があるのではないか。そのような状況の中、今後は定年延長制度も見越した人員配置及び、事務事業の整理集約(スクラップアンドビルド)が必要と考えるが、どのように対応していくのか。
			3、類似サービスの効率的運営について	直面している問題として、「視覚障がい者の移動に係る支援方策」がある。まず、類似サービスの具体的事業として、現状の問題点とその改善策について問う。次に、視覚障がい者の窓口手続き改善について問う。3点目に、行政サービスを必要とする市民の「幸福感」の享受により、職員のモチベーションとメンタルヘルス向上効果についての考えを問う。
	1	清風会 近藤 武	1、「健康」について	ベーシックインフラ構想のデータ連携基盤の活用が始まるとのことであるが、現在どれだけの情報量があり、どのように連携されていくのか、高齢化率の高い本市で市民が理解し、誰一人取り残さない全域での市民参加が進むのか。
			2、「教育」について	部活動の地域移行は、どのような過程で進んでいくのか。スポーツ振興事業団・スポーツ指導員人材バンク事業については今後どのように広がり取り組むのか。単なる部活動の地域移行ではなく本市独自の「放課後改革」の真意について聞く。 また、夜間中学、みとよ探求部、映画スクール、宝山湖ボールパーク、豊中統合小学校、中学校統一型標準服など教育について多くの取り組みがあり中身の濃い施政方針となっている。市長の教育に対する思いや考えを聞く。
			3、「三豊市独自の脱炭素社会」について	脱炭素社会に向けて昨年推進室をつくった、これまでの取り組みや成果と、本市独自の脱炭素化社会に向けての施策はどうあるべきなのか聞く、またZEHは他の自治体も取り組むが本市独自の施策は考えていないのか。
			4、デジタル化について	「健康・教育・脱炭素」の施策においてデジタルの利点を生かし最大限に活用するとあるが、デジタル化がどのように連携し、希薄になっている地域コミュニティー、暮らしやすい住み続けられるまちづくりを構築していくのか。
			5、移住定住・観光・関係人口について	今回空き家対策については窓口の一元化が行われるとのことだが、移住定住を推進していく施策はどのように考えているのか、コロナ禍でも父 母ヶ浜を訪れた観光客は多く過去最高であった。アフターコロナに向けて関係人口・交流人口を増加させていくためにどのように取り組んでいくのか。

質問日	質問順	会派/氏名	件名	要旨
3/7 (火)	2	自民新政会 城中利文	1、にぎわいが地域を元気にするまちについて	(1)水産業 ①漁業者育成と経営支援 漁協等関係機関と協力・連携により、新たな漁業従事者の確保と、後継者の技術等の取得支援について 経営の安定・効率化のため、AIやIoT等先端技術の導入について ②水産資源の確保と基礎整備 漁協、県との連携により水産物の安定供給のため、稚魚の放流について (2)観光 魅力的な観光地域づくりのため、詫間の造船地区跡地におけるにぎわい創出について
			2、人と自然が守られる定住のまちについて	防災・消防 (1)災害への備えと対応 市民が利用する施設や避難所等の公共施設、ため池等の農業用施設、港湾施設等の安全性の確保及び災害の未然防止に向けての耐震化について (2)非常用物資の備蓄 巨大地震等の大規模災害に備え、避難時に必要な物資(食料・水・生活必需品等)の備蓄とともに、防災用施設及び機材の計画的な整備について
			3、三豊市の将来像について	(1)人口減少(出生数の低迷)の影響により、まちづくりが大きく変化することについて (2)身の丈に合った公共施設の処分・統合について (3)次世代(子の孫)に借金を残さないについて (4)第2次総合計画の見直しについて
	3	立憲(CDP) 三木秀樹	1、新型コロナウイルス感染症が終息したかのような「信頼できない政府の対応」に従順でなく、市内の実情に合った市の対応策を聞く	5月8日以後、政府は、新型コロナウイルス感染症を「2類」から「5類」に変更すると決定した。昨年9月26日以後市内の「感染者数」を非公開としたが、私の調査では、それ以後、2月20日までに市内で2,000人の感染者が増え、3年間で県内249,351人の感染者のうち、市内では9,800人前後の感染者が出た。5月8日以後、どのように市民の「感染対策、命」を守っていくのか。感染しても「対応しない保健所、医療機関」。新たなコロナ「感染者難民」が相談できる部署を早急につくるべきと思うが。
			2、施政方針での「日本は、本当に平和なのでしょうか」と聞く、市長の真意は	(施政方針より)ミサイルが飛んでこないというだけで、多くの市民、子どもたちを傷つけていないのでしょうか。子どもたちのマスクの下は本当に笑顔なののでしょうか。・・・と述べられているが、現在の日本の平和状態を、どのように認識し、なぜ子どもたちが「傷つき」「笑顔なく」であるとのエビデンスを伺う。
			3、現在の「シルバー・デモクラシー」時代にあった施策が、施政方針に具体化されていない点を聞く	(1)限界集落が増え、防災訓練もできない自治会があると聞くが、その対策は。 (2)昨年の子供292人をどう判断しているのか。核家族の子育て環境に、三豊市独自の「高齢者パワー」の英知を生かし、市全体で「支援・見守る」体制の構想は。
			4、三豊市の「現業職を採用しない」を見直す時代に入ったと思うが、市長の見解を聞く	平成21年、当時の市長「現業職は採用しない」との判断以後、正職員でなく、大多数を占める非正規職員で長きにわたり、行政サービスを行ってきた。現在、多くの「会計年度職員が学校給食職場等」で働いている。子どもたちをめぐる環境は大きく変化している。会計年度職員の正規化で、より安心・安全体制を築くときと思うが見解は。
			5、マイナンバーカード制度に対する高齢者の「不安は」高まるばかり、各支所含めて、マイナンバーの相談窓口を創設しては	2月末のマイナンバーカード交付者数は、◎◎◎◎◎人、▲▲%となった。高齢者65歳以上の方々は、国民の猛反発で廃止となった「国民総背番号制」と同じで、個々の人権を無視する「氏名でなく」「番号で管理」する社会になるのではないかと、強い懸念をもっている。「信頼できない政府」が来秋までに健康保険証を廃止し、銀行口座等のマイナンバーカードの一体化(名寄せ)との流れに、高齢者の不安は増大している。法定受託事務であっても、市民の声を「聴取する」部署をつくるべきではないか。

質問日	質問順	会派/氏名	件名	要旨
3/7 (火)	4	公明党 込山文吉	1、(令和5年度施政方針より) 知・体・心を育み、自分らしく暮らせるまち	三豊市文化・スポーツ振興事業団の取り組みについて (1)スポーツ指導員人材バンク事業で、現在10競技15名の方が登録している。「子どもたちの放課後改革」を目標とする「MITOYO FUTURES」設立には、スポーツ指導員人材は何人ぐらい必要と考えるかを聞く。 (2)学校教育、地域スポーツ、地域文化活動の横断的な調整が必要と考えるが、振興事業団のバックアップ体制はできているのか。 (3)スポーツ指導員人材バンク募集以外にも、地域おこし協力隊制度の活用でスポーツ人材の確保、企業版ふるさと納税、人材派遣型の活用など、積極的な人材確保が急務ではないか、市長の考えを聞く。
			2、SDGs未来都市みとよ	令和2年度SDGs未来都市に選定された三豊市、数々の事業に取り組んできた。 しかし、一部の職員にしかSDGsは浸透していないように感じる。 市の事業のすべてを、SDGsの17の目標から捉えなおすことが必要であると思うが、改めて考えを聞く。
			3、効率的で健全な行財政運営	国の財源などを十分に活用する。 限られた経営資源の中で効率的に事業を実施とされているが、合併特例債ありきの運営に見える。 国土交通省都市局関係だけでも、都市構造再編集中支援事業・まちなかウォークアブル推進事業・都市、地域交通戦略推進事業・防災、省エネまちづくり緊急促進事業等多くの補助金が組まれている。 活用するべく調査は行っているか、考えを聞く。
3/8 (水)	5	桜の木 田中達也	1、施策の中心的役割を果たすデジタル化とベーシックインフラ構想	(1)データ連携基盤に対して、市から出すデータとはどのようなものか。 (2)ベーシックインフラ構想に対する市役所内の実施体制について確認する。 (3)市民のデジタル活用力を高める取り組みを実施する考えはあるか。 (4)ZEH補助と関連して、健康面から住宅のデータ収集をする考えはあるか。 (5)自治会からの要望等、対応待ち案件をデータベース化し公開する考えはあるか。
			2、後期基本計画の策定	(1)5年間の取り組みの成果を検証し、次の5年間で取り組むべき施策を見極めるとあるが、具体的な手順は。 (2)策定におけるランドデザインの取り扱いについて確認する。
			3、コミュニティ再編の指針	合併から17年が経過したが、さまざまな組織が未だ旧町の枠組みで活動をしている中で、コミュニティ再編の指針が示されることなく公共施設の複合化が先行することにより、市民は困惑し、公共施設再配置に対する総論賛成・各論反対を招いているという視点から、市長の考えを問う。
			4、知・体・心を育み、自分らしく暮らせるまち	(1)「みとよフューチャーズ」設立のための具体的な取り組みについて確認する。 (2)義務教育におけるICT教育の在り方と、SNS部、メタバース部の目的等について確認する。

質問日	質問順	会派/氏名	件名	要旨
3/8 (水)	6	志政会 丸戸研二	1、人口減少に歯止めが掛からない	(1)若者の地域定着 三豊で活躍できる基盤強化が必要ではないか。 (2)少子化対策 次なる対策は持っているのか。 (3)過疎対策 真の過疎対策に取り組むべきではないか。
			2、コロナを克服するための農業振興対策	(1)克服対策の必要性に対する認識 継続した対策が必要という認識はあるか。 (2)対策事業とその財源に対する考え方 (3)三豊市独自の対策が必要ではないか。 「稼ぐ力」を実現するための施策は何か。 次なる物価高騰対策が必要ではないか。
			3、宝山湖ポールパーク	(1)用地取得の状況 この一年間でどのような動きだったのか。 (2)行政目的と土地・施設管理 (3)健康づくり拠点としての活用計画 (4)収支の見通し 将来を見据えた収支見通し
	7	自民創生会 石井勢三	1、市民が可能性を切り開くまちづくりについて	(1)新型コロナウイルス感染症の拡大などにより、地域コミュニティー力の低下が懸念されている中、市民が気楽に行ける民間も含めコミュニティーの場が欲しいとも聞く。市長の考えを問う。 (2)夢をもって何かしらの行動をおこすことは「幸福度」ウェル・ビーイングにつながると、施政方針として宣言している。幸福度の高い環境づくりとしてどのような考えを持っているのか。
			2、デジタル田園都市構想で採択されたベーシックインフラ整備事業について	デジタル・データ等を活用し、市民・民間・行政が協力して今後、三豊市ではベーシックインフラ整備事業を進めていくとのことだが、現状と、今後どのような計画とタイムスケジュールか。
			3、ガバメント・クラウドについて	ガバメント・クラウドとは、地方公共団体情報システムの標準化に対する法律に基づき、基幹系20業務システムについて、デジタル庁が策定する標準仕様に準拠して開発されたシステムであるが、令和7年度の利用に対し、三豊市としての対応、準備は。また、市民の利便性はどうか。
			4、三豊市独自の脱炭素社会について	国を挙げて、脱炭素、カーボンマネージメントに対して真剣に取り組んでいる。三豊市独自というのは何が考えられるのか。その中でエネルギー消費の少ない高気密高断熱住宅への補助金とは。